令和３年度　高等学校入試についての県教委との情報交換　　　　　（定期大会資料）

佐藤書記長と勝村執行委員が、6月10日木曜日に県教育委員会の高比良参事と馬木参事・他１人と高校入試について情報交換を行いました。

　令和３年度入学生の選抜について、前期入学者選抜において、ある程度倍率が高かったとして高校入試全体が活性化したと評価しました。しかし、制度全体の評価は、各学校に入学した生徒たちが、それぞれの特色を理解してどのような生活を送るのかを見ないと評価はできないとの考えを示しました。　以下、やり取りの概要です。

＜R3年度の入試＞

|  |
| --- |
| 前期の不合格者が合格3058名に対して3126名（昨年の推薦入試では合格2109名に対して669名）であった。 |

・推薦入試は推薦が必要だったが、自由に受けられるようになったので受検生が増えた

・不合格の生徒が精神的にショックを受けたり気持ちの整理が必要だったりしたかもしれないが、その学校に行きたい気持ちがあり後期を受検し合格すればよかったと思えるのではないか。

・中学校の先生もご苦労されたのではないか。

　　前期不合格で後期も同じ学校を受けた生徒　　⇒　ほとんどの生徒（９割以上）

前期を受検せず後期を受検した生徒　⇒　後期受検者全体の1/3程度

※長崎西のような前期の定員が少ない学校では、前期の準備等に割く時間がもったいないと考え、後期のみの受検としているようだ。

※希望者が定員を割っている学校ではほとんどの生徒が前期を受検している。

※県教委が想定していた受検の仕方であった。

|  |
| --- |
| 入試終了時の合格者数が定員を割った学科・学校が130学科中77となり、　　　　　　　　　　　　　　昨年度を　11学科増加し、そのほとんどが離島や周辺校だった。制度導入の目的の一つが周辺校の受検者数の改善ではなかったか。特に周辺校の入学者減に歯止めがかからない。 |

・昨年度の推薦入試では受ける生徒がほぼいなかった学校が、今年度の前期入試の受検者が増えたが、後期も合わせると結果としては定員を割った学科が増えてしまった。

・中学生の数が減っているので、定数をいじるとかしないと解決しないのかもしれない。

|  |
| --- |
| 県教委が聞いた高校からの意見・要望の内容 |

・前期で特色を持った生徒を多く合格させることができた（良い点）

・学校の特色を打ち出すことができた　　　　・入試の科目を学校が主体的に選ぶことができた

●高校側の負担が増えた

●基礎学力試験では差がつかない（県教委も想定していた）

＜R4年度の入試＞

|  |
| --- |
| 基本方針の変更点と変更理由 |

（１）前期選抜の検査に総合問題が加わっているが

・高校側からの要望で導入した。特定の教科に係わらない問題をと説明している。中学校の学習指導要領を逸脱しないように注視する。

（２）前期選抜の合格発表

・昨年度は通知の到着がばらばらで非常に困った（中学校からの要望）